

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300276		
法人名	医療法人山育会		
事業所名	グループホーム サンシャインわたらせ		
所在地	群馬県桐生市元宿町2115-1		
自己評価作成日	令和4年12月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・手作り昼食やおやつ調理、食器拭きや洗濯ものたたみなど、できる範囲内でお手伝いしていただくことで役割や張り合いを持っていただき、感謝の言葉を伝えて達成感を感じていただいている。利用者様全員に1日1回はなんらかのお手伝いをしていただくことを目標に取り組んでいる。  
 ・毎月ご家族あてに手書きで作成したお便りを送り、日々の利用者様の様子を伝えている。また利用者様の体調の変化や往診、受診の結果等も速やかにお伝えし、ご家族との情報交換を密に行っている。  
 ・避難訓練では法定の訓練の他に火災、地震、水害など想定を変えて施設独自の避難訓練を毎月行い、利用者の安全と安心を守る取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、出勤・退勤のときには必ず、利用者全員に一人ひとりに挨拶をして業務を行っている。利用者が1日の生活の中で、少なくとも1つは何らかの作業に関われるように活躍の場をつくり、その活動に対して感謝の言葉を伝えることに取り組んでいる。また、プランターで茄子などの野菜を育て、野菜にそれぞれの利用者の名前を書いて、収穫までを楽しみとしている。毎日出掛ける散歩では、いくつかのコースを用意して利用者の希望を聞いてコースを選択するなど、利用者の意向を尊重した支援に努めている。毎月担当職員がそれぞれの利用者の様子を伝える個別の「おたより」を作成し、家族に報告して理解を求め、協力体制を保つよう努めている。事業所に寿司職人を招いて握りずしを楽しむイベントを企画するなど、家族の要望に応える努力を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念を事務所や玄関など目につきやすい場所に掲示し、理念に基づいたサービスを利用者様に提供することを常に意識しながら業務に当たっている。	事業所名を頭文字にしたわかりやすいキーワードで理念を表し、それをもとに、「尊厳を守る生活が送れるように支援します」としている。利用者の自由の保証・本来あるべき姿(これまでの生活)で過ごせるよう協力することが支援のベースである、と管理者は職員に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため地域との交流は限られているが、毎月「わたらせ通信」を回覧し、活動内容を地域の方々に伝えている。またご近所の方が季節の花を届けて下さったり、ウッドデッキに盆栽を飾って下さっている。	以前利用していた方の家族や地域の方が花を届けてくれたり、盆栽をウッドデッキに飾ってくれたり、自宅のイルミネーションを見に来るように誘ってくれたり、日常的な交流が行われている。地域に向けて毎月「わたらせ通信」を発行し、回覧版で事業所の活動を知らせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談窓口を設置し、介護や認知症に関する相談を常時受け入れられる体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため運営推進会議は中止となっている。活動内容を記載した報告書を作成して市や包括支援センター、地区の役員に提出し、意見や提案等をいただけるようお願いしている。	町会長、民生委員、薬局、地域包括支援センター等をメンバーとし、活動報告書を定期的に送付して運営状況の理解を求めている。具体的な意見を聴取するまでには至っていないが、会議再開に向けて、事業所と会議メンバーとの協力関係が保たれるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議報告書を提出する際、市の担当者と具体的な活動内容の報告を行い、意見をいただいている。苦情などがあった時に市に相談に行きアドバイスをいただいている。	運営推進会議の報告書を提出する際に、利用者や家族の様子や、防災訓練の内容などを報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三か月に一度、職員ミーティングで適切なケアの確認を行い、拘束が利用者様に与える影響を理解しながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。勉強会も行い、職員間での身体拘束についての意識付けを行っている。	年2回、法人で行う研修会に代表職員が出席し、事業所内で伝達研修を行ったり、外部研修等から得た情報を基に勉強し、特に言葉による拘束についてはミーティングで確認したりしている。ベッドからのずり落ち防止の工夫について話し合い、見守りを重視することで身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で虐待について学ぶ機会を設けている。虐待につながる以前の「不適切なケア」を行っていないかを職員同士で確認しあい、外傷等を発見したときは記録を残し、情報の共有と原因についての話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、それらの事業や制度を利用している方はいない。 活用の必要に応じて柔軟な対応をしてゆく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設をご本人、ご家族に見学していただき、利用者様の生活の様子を見ていただく。 契約の際には丁寧な説明を行い、不安な点や疑問があれば伺い、安心して利用につながるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等でご家族が来設された際や電話で報告事項をお伝えするときに意見や要望を伺っている。 ご本人、ご家族が気兼ねなく意見・要望をスタッフに伝えられるような信頼関係を築けるよう努めている。	担当職員が利用者毎に作成した「わたらせたより」を毎月家族に送付し、意見が言える関係づくりの構築に努めている。そうしたなか、家族の提案で、外食に替えて事業所内に寿司職人を招いて握り寿司を提供する企画が行われた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営労務協議会を定期的開催し、職員から寄せられた意見や提案を代表者に伝え、協議されている。 実際に反映につながった例もある。	法人の親睦会に各事業所から1名が出席し、業務上の問題点や要望を出し合って協議する仕組みがあり、通勤手当の計算方法が見直された。また、事業所内においては、当直職員の負担の軽減や休憩時間の取り方等について、申し送りやミーティングで話し合い調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回、職員がチャレンジシートを書き、前年の反省と今年の目標を考える意向調査がある。 法人内でのQC大会やテーマに沿った意見を出す作文大賞などが行われ、職員の意欲向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講演会や研修案内は施設内に掲示し、自由に参加できるようになっている。 職員が学びたい内容をまとめ、研修委員が中心になって毎月研修を行い、学びを深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設者研修の受け入れを行っている。 GH大会にも参加し、事例発表を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にできる限りケアマネや家族から情報を収集し、職員間で共有している。本人とのコミュニケーションを密にし、どのように生活したいかを傾聴し、職員間で把握することで信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入所の際にご家族と本人の現状や以前の生活環境の把握に努め、不安や要望についても傾聴している。入所後も本人の言動に注意し、家族の面会時や電話での状況報告の際に情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、入所後も本人とご家族とのコミュニケーションを十分に行い、本人の言動を観察しながら何をしたいかの意向を理解し、必要とする支援を見極め、対応を行ってゆく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思や個性を尊重し、今持っている能力を活用しながら食事の支度や片付け、洗濯物たたみや裁縫などを一緒に行い、達成感を持っていただけるように努め、お礼の言葉を必ず伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況報告を面会時や電話で行っている。毎月ご家族あてに手作りのお便りを担当職員が作成し、ご本人の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外部との接触は限られているが、感染予防対策を守りながらの知人との面会や電話での会話等の機会を設け、手紙のやり取りなどの支援も行っている。年賀状や暑中見舞いを本人と担当で書いて郵送している。	家族や友人との携帯電話でのやりとりでの電話操作のサポートの他、年賀状や手紙と一緒に書くなど関係が途切れないようにサポートしている。コロナ禍で外出が難しくなった状況下においては事業所内でできる事を検討し、地域のサークルで覚えた折り紙を他の利用者に教える講師としての役割を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や個々のペースに合わせ、座席も配慮している。レクリエーションや体操など一緒に楽しめる機会を設け、孤立して過ごすことがないように職員が間に入ってコミュニケーションが取れるよう気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者様の状況確認を電話等で随時行っている。 契約終了後も必要に応じて相談や支援を行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日をその人の望むペースで過ごしていただくことを基本としている。 ご家族からもご本人の生活歴を伺い、施設での暮らし方に反映させている。	その人の生活歴から、元気な頃の楽しみ方はどんなだったのかと問いかけて、働きかけるなかで興味を引き出している。1日ひとつは利用者ができることをしていただけるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や生活環境を確認できる個人ファイルがあり、職員はいつでも閲覧できる。 職員間でもこれまでの生活歴や新しい情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の精神状態や身体状態の観察を常に行い、臨機応変に対応できるよう心掛けている。 環境を整え、現状の有する能力やできることの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録を基に担当職員が毎月モニタリングを行い、ケアマネージャーが最終的に介護計画にまとめている。 毎月のカンファレンスではモニタリングの内容を中心に職員で話し合いを行い、介護計画の見直しを行っている。	その人に即した声掛けや話題作りを職員間で検討し、介護計画の目標に反映させている。短期目標を一覧にして日々のケアを提供し、記録している。担当職員が計画に沿ってモニタリングし、カンファレンスで目標設定を検討して3ヶ月毎の計画の見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基にした支援を行い、結果や気づき、日々の様子を個人記録に記入している。 申し送りノートを活用し、工夫する点や変更内容を記入し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、法人内の施設や医療機関との連携を取り、利用ができるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族やご兄弟、近所のご友人、介護保険外のサービスや地域資源を把握するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を尊重して、利用前からのかかりつけ医に往診をお願いしたり、必要があれば受診対応も行っている。	入居時に事業所の協力医について説明し、希望に沿ったかかりつけ医への受診を支援している。これまでのかかりつけ医となっても訪問診療や通院が行われている。便秘などの場合には、医師と連携をとりながら薬の調整を行うなど、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護の来設があり、日常の関わりの中での身体、精神面での観察や状態の報告を行っている。 24時間、緊急時の際にも対応してもらえる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の医療機関への入院が速やかに行える体制が整っている。 相談員との情報交換も密に行い、協力体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応については施設利用時にご家族より確認を取っている。 実践においてはその都度ご家族と話し合い、医療機関や訪問看護とも相談しながら取り組んでいる。	協力医・訪問看護との連携の下で看取りを行う体制があり、入居時に説明し定期的に意向を確認している。常時の医療処置が必要であれば入院機関を紹介し、医療処置後に入院期間が長期になった場合には、家族と相談し法人内介護施設での受け入れも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはすぐに主治医や訪問看護へ状況を報告し、支援や指示をもらえる体制ができています。 職員は急変時の対応についての研修や救命救命講座を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、施設独自の避難訓練を火災や地震、水害等について発生時刻などの想定を変えて行っている。 年2回、消防署の協力のもと、自衛防災訓練を実施している。	毎月、出火想定や避難経路を替えて避難訓練を行っており、戸惑うことがあればその原因を話し合っている。この他、年2回の消防署の指導の下での避難訓練も行っている。コロナ禍のため、地域の方の参加はないが、近隣の住民や民生委員等に対し、見守りの協力依頼を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の出勤時と退勤時の利用者様への挨拶を行っている。 ありがとうの言葉を基本として、丁寧な言葉使いを心掛けている。	出勤時・退勤時には、利用者一人ひとりに丁寧に挨拶を行っている。また、お手伝いをして頂いた際には、「ありがとう」の言葉を必ず伝えている。現場においての個々の職員の気付きを大切に、互いに注意し合ったり、ミーティングで話し合ったりと、利用者のプライドを傷つけない声掛けと介護の実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の要望や希望を伺い、自己決定ができるように心掛け、支援している。 本人からの希望が聞けないときは、ご家族からの情報も取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活ペースを基本として一日を過ごしていただいている。 体調等も考慮しながら、無理のないペースを守れるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の着替え準備や着衣は、本人の好みを基に行っている。 訪問理美容を利用し、ご本人の好みに合う髪形をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回の手作り昼食は、季節感を取り入れ、利用者様の好みや希望を聞きながら決めている。 調理や後片付けまで、できる範囲で一緒にを行い、職員も一緒に食事をし、楽しい雰囲気作りを行っている。	法人の給食センターで調理し、事業所で盛り付けて提供している。利用者は片付けに参加し、食器を拭く役割を担っている。週2回、利用者の希望を聞いて事業所内で一緒に食事作りが行われ、野菜切りやおにぎり作りに参加している。また、利用者の名前を書いて自分で育てた野菜を食べる楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	フロアにいつでも飲めるよう、常時ポットを置いてある。体重の増減に注意しながら食事量の調節も行っている。 水分補給が不足しがちな方にはスポーツドリンク等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔ケアを行い、磨き残しを確認し、介助している。 月に一度、歯科衛生士による口腔チェックを行い、その指導を基に口腔ケアや歯科受診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの利用者様の排泄パターンを把握し、必要に応じて排泄チェック表を活用しながら対応している。 オムツ類の使用については、ご本人の清潔さと快適さの維持を考慮しながら柔軟に対応している。	本人の不快感が少なく済むように配慮し、それぞれに合ったパットの形やサイズ、排泄の時間帯等を検討しながら、昼間は全員に対してトイレ誘導と見守りが行われている。プライドにも配慮し、できる事は自分で行えるようパットを手渡すだけの介助も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンや習慣性の把握に努め、毎日の体操や運動量の確保に努めている。 水分や食物繊維の多い食品、乳製品等を提供している。 主治医に相談しながら便秘薬の提供も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に二回、曜日を決めて行っているが、気持ちの面や体調により、時間や曜日を変えるなど柔軟に対応している。 入浴できなかった日は、清拭や着替え等で清潔を保てるよう考慮している。	週2回とし、負担なく、気分良く入浴できるように配慮して、これまで使っていたシャンプーや、入浴後のクリーム等を継続して使用している。入浴後の衣服を一緒に選び入浴につながる支援をしたり、一番風呂の希望に対応したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜休めるように日中は体を動かしたり、散歩をするなどして体内リズムを作ったり運動量を増やすよう工夫している。 眠れないときは無理に入眠を促すのではなく、お話をしたり、お茶を提供するなどの対応を行い、安心して休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を管理し、個々のファイルには薬情を入れてある。 薬局より処方された際には注意事項について指導を受け、職員間で共有している。 内服時は名前や日付を職員二人でチェックし、飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの内容を工夫しながら利用者様一人一人が楽しめるよう対応している。 個々の得意なことや個性を基にお手伝い等もお願いし、張り合いのある生活が維持できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出は限られているが、花見など自然と親しめる機会を設けるなどしている。	1日1回、1対1での散歩が行われている。いくつかの散歩コースを設けて、その日の気分で利用者が行きたいコースを選択している。 コロナ禍であっても毎年恒例の初詣や、季節に合わせて花見や紅葉狩りを行い、外気に触れる機会を大切にしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了承のもと、ご自身でお金を管理されている方もいる。 受診や必要品の購入などの際には、ご自分で支払われることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を利用していただいている。自身で携帯電話を所持している方もいる。またPCのテレビ電話機能を利用し、ご家族と毎週連絡を取り合っている方もいる。年賀状や暑中見舞いなど、手紙のやり取りもできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓は変形テーブルで、全員の顔が見えるようになっている。 玄関、ホール、居室入り口などに季節の花や利用者様と一緒に作った壁飾りなどを置いている。廊下やフロア、トイレは歩行を妨げないよう配慮している。	玄関正面に年明けらしい日の出をモチーフにした利用者の作品が飾られ、全員で書いた「あけましておめでとう」の文字が出迎えてくれる。ホールには陽ざしが差し込み、二重カーテンで採光を調節している。ホールと中庭のデッキが直結し、お茶を楽しむ場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用フロアは利用者様同士が談笑できるよう家具を設置してある。 フロアと廊下奥にはソファがあり、リラックスして過ごせる空間を設けている。 ウッドデッキにはイスとテーブルがあり、日光浴やお茶を楽しむスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族に相談し、馴染みの物や使い慣れた日用品や家具、寝具などを自由に持ち込んでいただいている。 写真やインテリアなどの飾りも希望に合わせて行っていただいている。	ベッドとタンスが用意され、その他は各自で持参している。テレビや家具、抱き枕や旅行先での写真を貼ったボードなど、それぞれの趣向に合わせた居室づくりが行われている。掲示したものをしまっ てしまわれる方には掲示を控えるなど、落ち着いた環境づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に花の飾りを付けたり、一緒に作ったネームプレートを飾り、ご自分の部屋の目印のように活用していただいている。 ホールを中心にしてすべてが見渡せ、キッチンの調理の様子が見られたり、料理の匂いもするなど家庭的な雰囲気作りの工夫をしている。		